

箱崎中学校及び教育研究施設新築工事基本設計プロポーザルの審査結果について

1. 審査結果

・最も適した設計者：Aグループ

(建築設計者)

梓・傳設計共同企業体

代表構成員：株式会社 梓設計 九州支社 常務執行役員支社長 渡邊 誠

構成員：株式会社 傳設計 代表取締役 岩本 茂美

(設備設計者)

テクノ工営・トーホー設備設計共同企業体

代表構成員：株式会社 テクノ工営 西日本支社 上席執行役員支社長 藤井 敏

構成員：株式会社 トーホー設備設計 代表取締役 鶴田 明

・次点者：Dグループ

(建築設計者)

大建・SAITO 設計共同企業体

代表構成員：株式会社 大建設計 九州事務所 九州事務所長 湯原 洋史

構成員：株式会社 SAITO 代表取締役 斉藤 昌平

(設備設計者)

株式会社 産研設計 代表取締役 船津 浩

2. 選定委員会開催日程

・第1回選定委員会

令和6年10月16日(水)

設計プロポーザルにおける審査、技術提案書評価及び求める提案課題並びに参加資格について審議を行い、審査方法など基本的な事項について決定。

・第2回選定委員会

令和6年11月18日(月)

配置する主任担当技術者の資格並びに管理技術者及び主任担当技術者の実績について、書類審査による一次審査を行い、二次審査対象者3者を選定。

・第3回選定委員会

令和6年12月26日(木)

技術提案書の内容について、設計プロポーザル技術委員会委員と意見交換。

・第4回選定委員会

令和7年1月9日(木)

技術提案書に記載の業務実施方針及び評価テーマについてのヒアリング並びに業務価格による二次審査を行い、最も適した設計者を選定。

3. 一次審査（１００点満点）

参加表明書を提出した４者をＡ～Ｄグループとして、各グループの参加資格及び「資格（主任担当技術者の専門分野の技術者資格）」「技術力（各技術者の業務実績）」の評価点の算定結果について、事務局が選定委員会へ説明を行った。

選定委員会は事務局の説明内容を確認のうえ、上位３者を二次審査参加者として選出することを決定した。

【一次審査の評価点】

順位	１位（Ｄグループ）	２位（Ｂグループ）	３位（Ａグループ）
評価点	１００点	８５点	７７．５点

4. 二次審査（１２０点満点）

二次審査参加者が提出した技術提案書に基づいてヒアリング（プレゼンテーション１５分以内、質疑応答１５分以内）を実施した。

各選定委員は、「業務の実施方針」「業務の実施体制」「業務の実施工程」「各評価テーマ」について採点した。事務局にて各選定委員の評価点の集計を行い、「資格・技術力（一次審査評価点の１５％）」と「業務価格」の点数を加えたものを、各グループの評価点の合計とした。

選定委員会は、評価点合計の最も高いＡグループを最も適した設計者、次に点数の高かったＤグループを次点者として選定することを決定した。

【各グループの評価点】

評価項目			評価点					
			Ａグループ		Ｂグループ		Ｄグループ	
資格・技術力 (一次審査の１５％： 小数点第三位以下切捨て)			11.62		12.75		15.00	
			平均	合計	平均	合計	平均	合計
技術提案	業務の実施方針	20	14.16	85	12.50	75	11.66	70
	業務の実施体制	20	14.16	85	12.50	75	14.16	85
	業務の実施工程	20	12.50	75	13.33	80	11.66	70
	テーマ１	20	15.83	95	14.16	85	9.16	55
	テーマ２	20	13.33	80	9.16	55	11.66	70
技術提案小計			69.98	420	61.65	370	58.30	350
業務価格			1		3		5	
評価点合計 (技術提案は平均点)			82.60		77.40		78.30	
順位			1位		3位		2位	

※技術提案の平均点は、小数点第三位以下切捨て。

5. 審査講評

Aグループ（選定者）

【業務の実施方針】

- ・歴史あるまちと新しいまちの共創を課題として捉えている点が評価された。
- ・コスト管理において、コストプランナーの活用や複数回のコスト確認を行う点が評価された。
- ・多彩なリビングの創出の考え方が評価された。

【業務の実施体制】

- ・共同企業体を構成する各企業の強み・特色を活かした業務推進の体制が評価された。
- ・Nearly ZEBを目指す姿勢が意欲的であると評価された。
- ・ZEBプランナーやコストプランナーなどを配置し、多様な視点からの検討を行う点が評価された。

【業務の実施工程】

- ・検討事項や保留事項の検討漏れを防止するための、具体的で有効な対策が評価された。
- ・フェーズごとに工程管理を行う点が評価された。
- ・ワークショップにより様々な意見を取り入れる点は評価されたが、開催回数が多く、スケジュールを圧迫する恐れがあるとの意見があった。

【テーマ1】

「まちづくりを踏まえた施設計画」

- ・周辺環境を踏まえた配置計画や動線計画が評価された。
- ・学校、教育研究施設、地域の良質なつながりを生むための、具体的で付加価値のある計画が評価された。
- ・地域と一体感を創出する具体的な緑化計画が評価された。

【テーマ2】

「新しい時代の学びを実現する施設計画」

- ・多彩なリビングを形成し、学校、教育研究施設、地域の協働で多くの活動を誘発する取り組みが評価された。
- ・地域との積極的な連携と併せて、セキュリティも考慮した施設計画が評価された。
- ・将来のニーズの変化や教育形態の変容に柔軟に対応する施設計画が評価された。

Dグループ（次点者）

【業務の実施方針】

- ・地域とともに「知」を育むコンセプトや、九州大学箱崎サテライトなどとの調整による周辺エリアと連携した施設づくりが評価された。
- ・九州大学箱崎キャンパス跡地グランドデザインを踏まえた広場の設置など、本市計画等を熟知した内容であると評価された。
- ・具体的で効果のあるイニシャルコスト低減の取り組みが評価された。

【業務の実施体制】

- ・本社技術支援部門のサポートなど、全社を挙げたバックアップ体制が評価された。
- ・地元とのつながりをより良くするための業務環境について、独創的で効果があると評価された。
- ・ランドスケープアーキテクトの参画など、効果的な技術者の起用が評価された。

【業務の実施工程】

- ・設計工期を短縮するための具体的で有効な取り組みが評価された。
- ・迅速かつ確実な合意形成のための具体的な提案が評価された。
- ・地域行事への参加と学校づくりの関係がより具体的に示されていると良かったとの意見があった。

【テーマ1】

「まちづくりを踏まえた施設計画」

- ・セットバックによる周囲への圧迫感の軽減や遊歩道の配置など、周辺環境と調和する施設づくりが評価された。
- ・災害時を想定し、施設の役割を踏まえた効果的な計画が評価された。
- ・曲線を活かした有機的な造形にすることによる費用対効果が不明との意見があった。

【テーマ2】

「新しい時代の学びを実現する施設計画」

- ・拡張性の高い施設を実現するための計画が具体的で有効であると評価された。
- ・将来の更新が容易なスケルトン・インフィル施設の計画が評価された。
- ・地域への開放については、運用面に不安があるとの意見があった。

Bグループ（非選定者）

【業務の実施方針】

- ・箱崎の歴史と文化の継承と未来を創造する学校づくりの考え方が評価された。
- ・概算工事費の算出を複数回行うコスト管理が評価された。
- ・学校全体に学びの場を創出する具体的な計画が評価された。

【業務の実施体制】

- ・実績と高い専門性をもつ企業との協働による検討体制が評価された。
- ・新しい学校施設のあり方を研究するサポート組織など、全社を挙げたサポート体制が評価された。
- ・建築に加え、電気・機械設備設計専門窓口を設けることは、責任の所在の点で懸念があるとの意見があった。

【業務の実施工程】

- ・市の確認期間などを適切に認識した業務工程が評価された。
- ・早い段階で地元の意見聴取を行い、設計と条件として取り扱うことができるスケジュールが評価された。
- ・タスク管理シートを活用したスケジュール管理が評価された。

【テーマ1】

「まちづくりを踏まえた施設計画」

- ・歴史と未来を繋ぐ独創的な施設計画が評価された。
- ・将来の水素供給に対応した非常用燃料電池の設置を検討している点が評価された。
- ・災害時の利用を想定した具体的な計画が評価された。

【テーマ2】

「新しい時代の学びを実現する施設計画」

- ・学びと交流の拠点を形成するための具体的な計画が独創的であると評価された。
- ・地域の歴史や風土を踏まえた工夫が評価された。
- ・環境負荷低減についての取り組みが、独創的で付加価値のあるものであるとさらに良かった。